

平成30年司法試験 合格体験記

平成29年度修了（既修コース）前嶋 智裕

13期既修の前嶋智裕と申します。

私は、入学当時、家庭の負担を減らすため、既修1年次に予備試験に合格し、法科大学院を辞めようと思っていました。しかし、在学中に予備試験に合格することはできず、2年間在籍しました。法科大学院で様々なことを経験させていただいたため、今では結果的には良かったと思っています。ただ、先生方は、既修1年次から予備試験を受けることを推奨し、応援してくださっていたので、在学中に合格できなかったことは申し訳なかったと思っています。

勉強面について、おそらく少数派の勉強方法だと思われるので、参考になるかわかりませんが、書いていきます。

まず、1科目当たり見直しに平均2日かかるまとめノートを作りました。復習の方法としては良かったと思っていますが、司法試験直前に消化しきれないノートもありました。次に、後悔しないために、試験直前の4月まで、基本書・百選の通読を答練等と並行してやっていました。基本書について、勉強を始めたころには通読できなかったのですが、法科大学院の演習科目を履修後には通読することができるようになりました。また、家庭の事情、自分のペースで勉強したかったこと、予備試験の論文式試験を2回受けていたことから、直前の1つの模試以外、予備校の論文答練は受けませんでした。さらに、超直前期（4～5月）に、初めて取り組むものを含む薄い演習書を各科目1冊決めて2周取り組みました。

生活・勉強面について、基本的に自宅で勉強を行い、1時間半勉強、15分読書、また勉強…というサイクルで勉強していました。気付けば、法律書を除き1年間で100冊ほど読んでいました。読書により自分の世界が広がりました。また、学生が参加可能な岡山大学法科大学院弁護士研修センター（OATC）開催の研修には多数参加しました。研修では、実務家の方からお話を伺えるため、将来の選択肢が広がりました。さらに、筋トレを継続して行っていました。

最後になりますが、法科大学院に入学して初めて勉強とは何かが分かりました。また、様々な出会い等の中で、人間的にも成長できました。これらは、私には、独学では困難なことだったと思うので、岡山大学法科大学院に入学してよかったと思っています。